学校経営方針

本校が大事にしている言葉

視遠惟明（しえんいめい）

＊遠い将来のことを良く見通すためには明でなければならない

一　西小学校の歴史と文化

我が国に学制が公布された翌年、明治６年（1873)鎌原、西脇、諏訪部、生塚、秋和の各村を学区にして向源寺（常磐城 2-807）に置かれた惟明学校が本校の出発点となる。その後に発せられた小学校令､国民学校令や統廃合により､校名に変遷があったが､昭和 22 年(1967)の学制改革により上田市立西小学校となり、現在に至っている。本年度は、大きな節目となる創立 150 年目にあたる。

本校は城下町としての古い町並みや伝統を残す地域と、高度経済成長の中で新たに発展した住宅地域とから成り立っているため、文化財や歴史的な人物の業績が地域に伝えられているとともに、公民館活動、地域活動が盛んな文教地域である。また、保護者や地域の方の学校への関心も高く、教科等における学力とともに、人間的な高まりや地域の伝統文化、自然を大切にできる心情を備えた子どもの育成を願っている。

二　学校教育目標

「進んで学び、豊かな心をもって、たくましく生きる子」

・かしこく：問いをもち友と関わりながら追究する子

・やさしく：相手のことを考えて行動できる子

・たくましく：心身ともに健康で粘り強く取り組む子

三　本年度の重点目標

新型コロナウイルス感染拡大に象徴されるように、将来を予測することが困難な時代となっている。今の子ども達が社会に出て働く 10 年後は、より変化が激しくなると考えられるため、迅速かつ柔軟な対応が必要とされる。そのため、変化に応じて自分で判断し行動する主体性が、今以上に重要となる。そこで、本年度のめざす子どもの姿を「自ら気づき、友と考え、のびのびと表現する子ども」とし、「協働的な学び」や、子どもが主体となる活動に取り組みたい。

四　グランドデザインのコンセプト

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない。児童が新型コロナウイルスに感染することは、もちろん防がなければいけないが、子どもたちの健やかな発達も大切にしなくてはならない。子どもたちにとって、遠足や運動会などの行事はとても大切である。最後まで歩ききった。全力で頑張った。そういう思い出は、いつまでも忘れることはない。つらいことが

あっても「あの時頑張れたんだから、きっと大丈夫」と思えば力が出る。これが縦の糸だと考える。

では横の糸は何であろう。それは友達や先生、そして地域の方に見守られ、励まされ、支えられたという経験であると考える。「自分は一人じゃない。みんなが励ましてくれる」そう思えば頑張れる。この縦糸と横糸を強くしっかりと織り重ねることが大切である。それが、その子の自立のための足場になるからである。

撮影協力：小岩井紬工房

このようなコンセプトに基づき、上田の伝統工芸品「上田紬」をモチーフにして令和４年度のグランドデザインを作成した。

五　具体的方策

１　横糸①：友だち

（１）人権教育の充実

人権教育の年間計画を見直すと共に、改訂された「あけぼの」を活用しながら人権教育の授業改善を進める。特に高学年では同和教育の推進に力を入れる。本年度は「三中ブロック教職員人権同和教育研修会」の会場校であり、低学年と高学年で一つずつ、授業公開をする。これらの取り組みにより、いじめや差別のない学級を目指す。

（２）特別支援教育の充実

通常学級におけるインクルーシブ教育の充実を図る。県の「学びの改革支援事業」を活用し、本年度特設された「おひさま教室」を中心に、北小学校のLD等通級指導教室との連携を進める。１年生がスムーズに小学校生活をスタートできるように「スタートカリキュラム」を実施する。これらの取り組みにより、障がいのある子も含め、全ての子が安心して学べる環境づくりを目指す。

（３）「教えて」と言える友との関係

このようにして安心して学べる学級の雰囲気が醸成されることは、子どもたちが、お互いの言葉を聴き合う関係につながる。そして、それらの言葉が響きあう授業へと発展する。分からないことを恥ずかしいと思わず、安心して「教えて」と言える友との関係は、横糸②：先生（１）の「協働的な学び」の土台となる。

（３）つながりを深める交流活動

児童会活動の「えがお集会」や「なかよしタイム」、また「西小アドベンチャー」や「なかよし郵便」の交流活動を通してペア学級の交流を進める。

2　横糸②：先生

（1）教職員の指導力向上

教職員が互いの授業を気軽に見合い、日常の授業を改善する。麻布教育研究所（東京）の村瀬公胤（むらせ・まさつぐ）先生をお招きし、授業改善研修会を開いてご指導を受ける。これらの取り組みにより、子どもの声に耳を傾ける教師が、ジャンプのある課題を設定した授業を展開し、友と関わり合いながらペアやグループで学習を深める「協働的な学び」の充実を目指す。

また、先に述べた「学びの改革支援事業」を活用して外部講師を招き、通常学級における特別支援教育の研修会を開き、通常学級におけるインクルーシブ教育の充実を図る。

（2）ふるさと学習の充実

本校周辺には、上田城跡や旧北国街道沿いの町並みなどの文化財が残る。また、太郎山周辺には豊かな自然が広がっている。生活科や総合的な学習の時間に、積極的に校外に出て、ふるさとで学びを深める。

（3）体育学習の充実

運動固有の楽しさ（特性）に触れながら夢中になって体を動かす授業を展開することで、運動が好きな子どもの育成を目指す。このことが、結果として、コロナ禍で低下した体力の向上や基本的な技能の定着に結びつくと考える。

（4）コロナ禍の中でも学校行事を大切に

コロナ禍の中、多くの行事が中止や縮小を余儀なくされた。しかし、感染状況を見ながら、できる限り行事を実施したい。行事の実施にあたっては、子どもたちが主役になるよう配慮する。そして、子どもたちが、満足感や達成感を味わえるようにしたい。行事のための準備に要する時間をできる限り減らすため、授業の延長としての行事を心がける。

3　横糸③：地域の方

（1）地域ボランティアの支援

本校では、多くのボランティアが活動している。しかしながらコロナ禍の中、思うように活動することができなかった。感染警戒レベルが下がった時に、地域ボランティアが学校に入り活動できるよう支援していく。

（2）150 周年記念事業の推進

令和５年 11 月 25 日に本校の創立 150 周年記念式典が予定されている。地域の方を中心にした実行委員会が組織され、準備を進めている。本校職員も連携し、子どもたちのための事業となるようにしたい。